

九州運輸局メールマガジンをご愛読くださりありがとうございます。

九州運輸局メールマガジンは隔週の木曜日にお届けいたします。

次回発行日は平成27年11月12日(木)です。

◆ 目次

1 現場レポート

- ・「喫茶電車」「動く遺産」ながさきをゆく～レイルフェスタ九州2015～
- ・「バスを利用したバリアフリー体験」～バリアフリー教室 in 佐賀市立西川副小学校～
- ・平成27年度Gマーク運輸支局長表彰式を各地で開催しました～トラック業界の安全の増進、信頼の増大に向けて～
- ・自動車ユーザーに点検・整備の重要性をアピール～「第16回自動車まつり」開催～
- ・旅客フェリーの火災発生時の消火・避難誘導訓練を実施しました～フェリーの火災事故を教訓として～
- ・海の社会科見学 in させぼ
- ・サイロ倉庫・海上コンテナターミナル見学会を実施～海事産業人材育成事業の推進～
- ・危機管理の検証のため消防訓練を実施しました！～「身体で覚えたことは自然に実行できる」を目指して～
- ・入選標語決定！入選1位 「見落とすな ダブルチェックで ゼロ災害」～鉄道モードで平成27年度年末年始輸送安全総点検標語を募集しました～

2 お知らせ

- ・省エネ促進フォーラム2015 in 福岡」を開催します！～人と地球にやさしい運輸を目指して～
- ・「有田まちなかフェスティバル」の開催について
- ・津波から身を守る！11月5日は「津波防災の日」です。～浮いて生き延びる津波救命艇についてご存じですか～

3 九州運輸局ホームページアップ情報

- ・報道発表
- ・お知らせ
- ・更新情報

1 現場レポート

◆「喫茶電車」「動く遺産」ながさきをゆく

～レイルフェスタ九州2015～

長崎の街になくてはならない、また、長崎の街の風景に溶け込んだ「路面電車」。長崎を訪れる国内外のたくさんのお客様からも愛されています。そんな長崎電気軌道株式会社が運行する路面電車は、なんと今年で運行100周年を迎えました。

10月11日快晴の日曜日、九州運輸局と九州鉄道協会、鉄軌道各社でつくる「鉄

道の日」九州実行委員会では、「レイルフェスタ九州2015」として、長崎の路面電車にスポットを当てた次の3本立てのイベントを行いました。

I. 喫茶電車 ながさきをゆく ～路面電車を楽しむカフェ&スイーツ～

毎年、大変人気のビール電車として改造された車両を喫茶電車として運行しました。

車内では飲み物とスイーツを提供、車窓の景色とともに街のご案内や景品が当たるクイズなどでお楽しみいただきました。

II. 動く遺産168号特別運行 ～明治の木造レトロ電車 ながさきをゆく～

「動く遺産」と呼ばれる168号電車。生まれはなんと明治44年。今年で104歳になった日本最古の路面電車です。通常のダイヤでは運行しておりませんが、今でも現役の電車です。雨の日には運行しない木造の電車では運転士は立って運転します。そんな168号は、マニアにはもちろん、市民にも愛されています。当日、沿道には数多くのカメラを手にしたマニアが待ち受けていて、また、市民や外国人観光客も168号に手を振ったり撮影する姿がみられました。参加された皆さんは通常乗車できないこの電車に乗ることが出来るこの日を楽しみにされていたようで、笑顔で車窓から手を振っていました。

III. 電停からはじまる長崎遺産ウォーク

長崎では街歩きを「さるく」と呼んで観光資源にしています。このイベントは、まさに電停から始まる「さるく」です。コースは当日まで明かさないミステリーさるくです。スタートは石橋電停。ここから、長崎特有の坂道を無料の長い斜行エレベーター「長崎スカイロード」で、南山手が一望できるグラバー園下の高台まで一気に登ります。そこから大浦天主堂やグラバー園付近の街歩きを楽しみました。市内からの参加者は「こんなイベントをしていただき、ありがとうございました。地元に住んでいると地元のことを全く知らないんです。」といった声も聞かれました。

レイルフェスタは毎年レイルマンス（10月）に九州各地の鉄軌道にスポットを当てて開催しています。今年も、遠くは茨城、東京、三重、大阪、宮崎などから定数をはるかに超えるお申し込みをいただきました。当日はマスコミも同乗取材するなど注目され、電車の魅力をPRすることができました。

九州運輸局では、今後もいろいろな企画で安全・安心で地球にやさしく、楽しい鉄軌道の魅力を発信してまいります。

レイルフェスタ九州2015の様子は次のURLからどうぞ。

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_318_1.pdf

（鉄道部 計画課）

◆「バスを利用したバリアフリー体験」

～バリアフリー教室 in 佐賀市立西川副小学校～

九州運輸局では10月15日（木）、佐賀市立西川副小学校（佐賀市川副町）において、3年生40名を対象に、佐賀市交通局、佐賀市ボランティアグループのご協力のもと、佐賀運輸支局及び佐賀市社会福祉協議会と共に、バリアフリー教室を開催しました。

今回の教室では、佐賀市ボランティアグループ「クローバーの会」会長ほかの皆様による指導のもと、実際のバスを利用して、車いす体験、視覚障害者体験をしまし

た。

最初に、佐賀市交通局の職員から、今回使用するノンステップバスのしくみやバスの乗り方についての説明がありました。その後、児童は体育館で車いすの操作の方法等を学んだ上で、スロープを使用したバスの乗降体験をしました。また、視覚障害者体験では、児童はアイマスクを着用して介助者（児童）に誘導してもらいながら体育館を歩き、その後、バスに移動して乗降体験をしました。介助者は、声かけの重要性や方向・距離の案内の仕方などについて積極的に取り組みました。

当日は、天候にも恵まれ、児童は元気いっぱい目を輝かせて取り組んでいました。参加した児童からは、「バスから車いすに乗っている人を降ろす時は重くて怖かった。乗っている人が怖くないようにしたい」「足が不自由な人の大変さがわかった。今度バスに乗ったときに車いすを使っている人を見かけたら、助けたいと思った。」などの感想がありました。テレビ局と新聞社の取材もあり、バリアフリーに対する関心の高さがうかがえました。

今後も九州運輸局では、このような取り組みを通じて、「心のバリアフリー」の推進に努めてまいります。

教室の様子は、下記URLからご覧頂けます。

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_318_13.pdf

（交通政策部 消費者行政・情報課）

◆平成27年度Gマーク運輸支局長表彰式を各地で開催しました

～トラック業界の安全の増進、信頼の増大に向けて～

国土交通省では、貨物自動車運送事業者で安全性優良事業所（Gマーク制度）の認定を連続して10年以上取得し、安全対策等について顕著な功績が認められる事業所に対する表彰制度を平成26年度に創設しました。

平成27年度の運輸支局長表彰式は、10月9日（佐賀）、13日（鹿児島）、14日（大分）、19日（長崎）にそれぞれ執り行われ、各運輸支局長から輸送の安全に積極的に取り組んでいるトラック事業所に対して、表彰状の授与が行われました。

（熊本は本日10月29日に、福岡は11月4日に執り行うこととしています。）

また、今年度は九州運輸局長表彰についても執り行う予定です。

九州運輸局は、これからも、Gマークの普及を推進し、トラック業界の安全の増進、信頼の増大を図っていきます。

運輸支局長表彰を受賞された事業所は、次のとおりです。（各五十音順）

【佐賀】▽大和物流株式会社佐賀営業所▽富士貨物自動車株式会社本社営業所▽ヤクルトウエスト・ロジスティクス株式会社佐賀営業所

【鹿児島】▽セイコー運輸株式会社本社営業所▽中越物産株式会社九州流通事業所▽日本通運株式会社鹿児島航空支店▽南九州センコー株式会社鹿児島営業所

【大分】▽株式会社辰巳商会大分営業所▽東九総合運輸株式会社本社営業所▽日本通運株式会社大分支店大分海運事業所▽日本通運株式会社大分支店大分物流事業所▽コンテナ課▽日本通運株式会社大分支店佐伯営業所▽日本通運株式会社中津支店

【長崎】▽久留米運送株式会社諫早店▽株式会社光葉産業運輸本社営業所▽親和自動車有限会社本社営業所

Gマーク制度の概要はこちらのURLからどうぞ。

http://www.mlit.go.jp/jidosha/jidosha_tk4_000013.html

各地での表彰式の模様は、次のURLからご覧になれます。

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_318_3.pdf

(自動車交通部貨物課、佐賀運輸支局、鹿児島運輸支局、大分運輸支局、長崎運輸支局)

◆自動車ユーザーに点検・整備の重要性をアピール

～「第16回自動車まつり」開催～

去る10月17日、熊本運輸支局構内で(一社)熊本県自動車整備振興会主催による「第16回自動車まつり」が開催されました。

この自動車まつりは、自動車整備振興会を中心として、県内の自動車に関係する多くの機関や団体等の協力のもと、様々な催し物を通じて、自動車ユーザーの保守管理意識・交通安全意識の高揚を図り、確実な点検・整備の励行につなげることを目的として開催されるイベントで、九州管内随一の規模を持って平成12年に始まり、今年で16回目を迎えました。

当日は雲一つ無い秋晴れの下、整備振興会斎藤会長の主催者挨拶に続き、熊本運輸支局本田支局長が来賓挨拶を行い、盛大な「爆竹の合図」により幕を開けました。会場入り口には、午前10時の開場前から多くのクルマが並び、歩いて会場を訪れた家族連れは、開会合図と同時に一目散にお目当てのコーナーを目指していました。イベントは、自動車関連の各種イベントはもとより、子供向けの人気キャラクターショーやバルーンアートショー、お父さんお母さんに大うけの物まね歌謡ショー、さらには主婦層をターゲットに新鮮野菜や特産品等の販売など、子供からお年寄りまで幅広い年齢層が楽しめる内容となっており、入場者数は約3,200名と、昨年を超える盛況ぶりでした。

特に、メインイベントである愛車点検コーナーや電装品点検コーナーでは、155台のマイカーがプロによる無料点検を受けるとともに点検・整備についてアドバイスをもらい、マイカー点検教室のコーナーでは、延べ277人のユーザーがプロの自動車整備士から、実車を使ったタイヤの空気圧のチェック方法など具体的な日常点検について指導を受けていました。また、これらのコーナーに立ち寄ったユーザーの多くは、そのポイントを真剣な表情で質問するなど、このイベントが、自動車の点検・整備に対するユーザーの意識高揚に大きく貢献していることをあらためて窺い知ることが出来ました。

さらには、交通安全に関する体験型のコーナーも人気が高く、自動車事故対策機構による運転適性診断機を使用したドライブシミュレーションや熊本県警による自転車運転シミュレーション、熊本県交通安全協会のシートベルトショック体験などには、閉会時間まで長蛇の列が出来ていました。

また一方、整備人材の確保・育成のためのコーナーも設けられ、その一環として「クイズラリー」が実施されました。このクイズラリーは、若者の自動車離れが進む中、まずは多くの子供達に自動車に興味を持って貰おうと、昨年から取り入れられたイベントで、300人の小学生が参加しました。内容は、場内3箇所のラリーポイントをまわり自動車や整備士に関するクイズに答え、すべてのポイントで正答した参加者に、ジュニア整備士ライセンス・認定証などをプレゼントするというものでし

たが、子供さんだけでなく親子でポイントを回り、一緒にクイズを解く微笑ましい姿もたくさん見られました。

ほかにも自動車に興味を持って貰う取り組みとして、電動バスや白バイ、ハーレーダビットソン、本物のレーシングカーの展示などもあり、将来の自動車関係業界や産業を担う（予定の？）ちびっ子達が目を輝かせてハンドルを握っていました。

我が熊本運輸支局も軽自動車検査協会熊本事務所とともに「車の登録・整備相談コーナー」を設置しました。今回は名義変更の手続き方法や定期点検等について37件の相談や質問があり、支局・事務所の職員が丁寧に対応しました。

さらに自動車検査場では、検査法人熊本事務所による実車を使用した模擬検査の見学会が行われ、50人余りの親子が参加しました。普段は見ることのない自動車の検査の様子、特にピットでの下回りの検査では自動車の底部が覗けるとあって、小さいお子さんが床に座り込み、興味津々。これに応えるように、検査法人の担当者もいつもにも増して大きな声で分かりやすく説明するなど、大いに気合いが入っていました。

この「自動車まつり」は、回を追う毎に多くの自動車ユーザーが親子連れで来場し、自動車の点検・整備の重要性を楽しみながら学べる充実したイベントとして定着しています。

来年はあなたも、熊本の「自動車まつり」を訪れて見ませんか。

「自動車まつり」の様子は下記URLからどうぞ。

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_318_10.pdf

（熊本運輸支局 整備部門）

◆旅客フェリーの火災発生時の消火・避難誘導訓練を実施しました

～フェリーの火災事故を教訓として～

平成27年10月21日、国道九四フェリー株式会社では、大分県佐賀関港において、本年7月31日に苫小牧沖で発生したフェリーの火災事故を教訓とした、消火及び避難誘導訓練を実施しました。この訓練には、大分運輸支局、大分海上保安部も参加しました。

訓練は、航海中に車両甲板の大型車両から出火し、負傷者が発見されたとの想定で行われ、負傷者救出、消火活動、旅客への情報提供及び避難誘導、海上保安部ほか関係機関への情報伝達、総員退船などが実施され、このほか、救助艇の降下訓練、海上保安部巡視艇による放水消火作業も行われました。

火災が発生した車両甲板では、発煙筒による煙が充満する中、迅速な負傷者の救助作業、消防員装具を着用した消火作業、スプリンクラーによる消火が実施されました。

この間、客室においては、船長から船内放送による状況説明を行い、乗客に対して冷静な行動を求めています。また、乗組員は、各客室に分散していた旅客の誘導、救命胴衣の着用方法、脱出用シューターの降り方など、退船が完了するまで、乗客に対する十分なフォローが行われていました。

また、当日は訓練ということで、本社、船舶、関係機関相互の無線による情報伝達の状況も常に船内に放送されており、船長の指示や乗組員の応答状況などを確認することができました。

訓練後、参加者から「訓練と同じ状況の事故は全くないと考え、普段から様々な想定を行うようにすること。」「乗客、特に負傷者のケアを十分に行うこと。」等の意見がありました。

事故は、いつ、どのような状況で発生するかわかりません。日常の訓練を繰り返し、非常時に対応できるよう日頃から準備することの重要性を改めて認識させられた訓練でした。

訓練の様子は次のURLからご覧下さい。

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_318_11.pdf

(大分運輸支局)

◆海の社会科見学 in させぼ

皆さんの周りに海に関わる会社（海事産業）で働いている人はいますか？

海の仕事のなかで例えば船員は約40年前の1/4未満に減少し、造船業も国際競争の高まりから、技能員の確保が不可欠な状況です。

佐世保海事事務所でも毎年佐世保市内の小中学校の児童・生徒を対象に、佐世保港内で海の仕事の見学会を実施しています。

今年度も7月9日、9月10日、9月15日及び10月8日に、延べ計136名の児童・生徒及び12名の教員を対象に、佐世保重工業（SSK）の造船所、離島航路を運航する「フェリーみしま」の見学会と、旅客船による佐世保港内クルーズを実施しました。

見学会と体験乗船では、多くの児童たちが熱心にメモを取ったり質問をしたり、造船所や船や港に興味津々といったところで、見学会終了後のアンケートでも、「造船所の仕事に就きたい」「海運がないと私たちの生活が成り立たない」といった意見が多く、海事産業への関心やその重要性を理解していただけたのではないかと思います。

佐世保海事事務所では、このような見学会を通してひとりで多くの子どもたちが海事産業の大切さを知り、将来は海事産業に携わってくれることを信じて、海事産業次世代人材育成事業に今後も積極的に取り組んでいきます。

次のURLから写真やコメントで見学会等の流れがわかりますので、是非ご覧下さい。

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_318_12.pdf

(佐世保海事事務所)

◆サイロ倉庫・海上コンテナターミナル見学会を実施

～海事産業人材育成事業の推進～

経済のグローバル化が進む中、世界的に海上輸送量は年々増加しています。海上輸送と陸上輸送の結節点である海上コンテナターミナルは、これら大量の貨物を迅速・効率的に船舶へ積み卸しています。また、倉庫はこれらの貨物を含め国民生活や産業活動に欠かすことのできない物資の保管を通じて安定供給を図る機能を担うとともに、物流の結節点として円滑な流通の確保に大きな役割を果たしています。

鹿児島運輸支局では10月10日に鹿児島県倉庫協会の創立60周年記念事業と共催し、志布志市立安楽小学校の5・6年生41名を対象に国民生活や産業活動に欠かすことのできない倉庫や海上コンテナターミナルの役割やそこで働く人に焦

点をあて、物流の中核を担う倉庫業等を広く理解していただくことを目的に、志布志サイロ株式会社のサイロ倉庫と志布志港国際コンテナターミナルの見学会を開催しました。

サイロ倉庫では、担当者から志布志港での「とうもろこし」の取扱量が全国上位であることや、「とうもろこし」が鹿児島県、宮崎県等の畜産農家にとって大事な飼料原料であることの説明等があり、生徒たちは熱心に耳を傾けていました。また、生徒たちは初めて見るサイロ倉庫の巨大さに驚きの声を上げていました。

コンテナターミナルでは40フィートの空コンテナの中へ入り、コンテナの大きさを体感したり、巨大なガントリークレーンによるコンテナの吊り上げ等の実演を間近で見ることができ、生徒たちは学校では得られない貴重な体験ができたことを喜んでいました。

さらに、生徒から「コンテナの重さは？クレーンの高さは？」などの活発な質問が出されるなど、海事施設への関心や理解が深まった見学会となりました。

鹿児島運輸支局では、今後とも魅力ある海事関係の分野を幅広くPRする活動をはじめ、海事産業の人材育成に努めていきます。

見学会の様子は次のURLからご覧ください。

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_318_7.pdf

(鹿児島運輸支局)

◆危機管理の検証のため消防訓練を実施しました！

～「身体で覚えたことは自然に実行できる」を目指して～

福岡運輸支局（本庁舎）では、平成27年10月21日（水）、1階休憩室冷蔵庫付近において漏電が原因と思われる火災が発生したとの想定のもと独立行政法人九州州検査部と合同で消防訓練を実施しました。

この訓練は、火災等の災害は、いつどこで発生するかわからないことから、有事の際にパニックを起こさず、『安全』かつ『確実』に行動できるよう、日頃から準備しておくことを明確にするとともに、万が一、火災が発生した場合、消防隊が到着するまで、その被害を最小限とするため、自衛消防活動等について習熟させ、職員個々の防災意識の高揚と技術の向上を図ることを目的としております。

当該訓練においては、本年4月の人事異動により新たに自衛消防隊に編成された職員もいることから、あらかじめ「九州運輸局福岡運輸支局消防計画」（以下「支局消防計画」という。）や消防庁作成の各種訓練マニュアル資料等を配布し、各自の任務内容について習得させることにより、訓練当日、指示がなくてもそれぞれの任務が迅速かつ的確に執行できる体制を追求しました。

また、訓練火災の覚知後、実際に通報係が消防署へ訓練通報を行うなど、非常事態に即した訓練となるようシナリオを工夫しました。

訓練終了後行った職員への聞き取り調査では、「今後に向けては、支局消防計画に基づく任務分担で定められている担当者が、休暇等で不在となる場合でも119番通報や初期消火、避難誘導などが誰でも確実に実施できるようにしておくべきでは。」といった意見や、「今回の総合訓練は、庁舎利用者への影響を最小限にするため勤務時間終了後に実施したが、今後に向けては、訓練の実施時間帯の検討も必要ではないか。」といった意見などもあり、支局消防計画の内容（自衛消防隊の編

成等)の見直しや改善の検討に向けて有意義な訓練となりました。

近年、地震や風水害をはじめとした自然災害も多く発生していることから、当支局においては、これらを原因とする不測の事態が発生した場合においても、円滑かつ的確に措置が講じられるよう今後も引き続き職員をはじめ庁舎利用者の安全確保を図って参ります。

訓練の様子は次のURLからご覧になれます。

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_318_8.pdf

(福岡運輸支局)

◆入選標語決定！入選1位 「見落とすな ダブルチェックで ゼロ災害」
～鉄道モードで平成27年度年末年始輸送等安全総点検標語を募集しました～

国土交通省では例年12月10日から翌年の1月10日までの間を、年末年始の輸送等安全総点検の実施期間と定め、鉄道、自動車、船舶、航空などの各輸送機関に対し総点検を実施しています。

九州鉄道協会でも鉄道の安全確保を最大の目標に、鉄道事業者とともに総点検に臨んでおり、毎年、安全総点検に先立ち、鉄道事業者の従業員の方を対とした安全総点検の標語を応募しています。募集の主旨は「運転事故の絶滅」「一般の方へのPR」であり、毎年応募される標語には安全への意気込み等が表現されています。

今年度も「1432件」の応募があり(入選、佳作には鉄道協会より賞金が出るようで、何件も出される方もおられました)、九州鉄道協会と九州運輸局鉄道部で厳正な審査を行い、6件の入選作品と12件の佳作を選出しました。

選出にあたっては、一次審査で約2割の「285件」へ、二次審査で「77件」へ、そして投票により入選、佳作を決定いたしました。投票に残ったどの作品もレベルが高くはつきりと優越がつけられず、再審査の末やっと決定しました。入選作と佳作の標語は一見レベルの違いが分かりづらいかもしれませんが、よく読んでいただければ伝わるものが有るのではないかと思います。

審査にあたっては、思いつくワードが同じものになりがちで、似たようなものが有ったり、社風が感じられるものがあったり、中には(ありませんけど)番外編で採用したいような個性的なものも有りましたが、これは(事故を起こしたときの)経験に基づくものだろうと思えるような納得できるものも多く、応募していただいた皆さんの安全への意識が表れているようで、また、標語を作りながら安全の重要性や安全運行には何が重要かといったことに改めて気づかれた方もおられたのではないかと、この取組の有意義さを感じています。

平成27年度年末年始輸送等安全総点検の実施まで、一月余り期間がありますが、総点検期間中はもとよりその前後も含め、事故が無いことを願いながら、これらの標語の深いところを見抜いて頂ければ幸いです。

また、安全確保の命題は鉄道事業であっても、自動車事業も海運事業も同じはずで、鉄道モードで募集した標語ではありますが、鉄道以外の輸送機関の方々もきっと頷かれる標語ばかりと思います。

以下のURLをクリックして、是非とも入選、佳作の標語をご覧ください。

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/pdf/photo/photo_318_9.pdf

(鉄道部 安全指導課)

◆省エネ促進フォーラム2015 in 福岡」を開催します！

～人と地球にやさしい運輸を目指して～

九州運輸局では、地球温暖化問題の理解を深め、人と地球にやさしい運輸を目指すために、種々の取り組み情報を共有し、今後の省エネルギー対策の参考としていただくことを目的として、例年「省エネ促進フォーラム」を開催しています。

今年度は11月17日(火)、福岡市で「省エネ促進フォーラム2015 in 福岡」を開催します。

フォーラムでは九州工業大学の西名誉教授による基調講演や、省エネ対策の取り組み事例紹介を行うとともに、運輸部門での環境保全の活動に著しい功績のあった事業者等を顕彰する「九州運輸局環境保全及び交通バリアフリー等関係表彰」(環境部門)の表彰式も行う予定です。

どなたでも参加できますので、多数のお申し込みをお待ちしております。

なお、お申し込みは、お手数ですが下記URLより所定の申込用紙をダウンロードして事務局までファックスをお願いします。

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/press/pdf/press2015-1013-kankyobutsuryu.pdf>

(交通政策部 環境・物流課)

◆「有田まちなかフェスティバル」の開催について

来年は日本磁器誕生・有田焼創業から400年の節目にあたります。佐賀県有田町においては、11月1日より30日まで、そのプレイベントとして、有田のまちを舞台に、窯元をはじめ住民が企画しおもてなしするイベント「有田まちなかフェスティバル」が開催されます。

有田町は、観光庁の「地域資源を活用した観光地魅力創造事業」に採択され、本年度より九州運輸局と連携して、地域の観光資源を世界に通用するレベルまで磨き上げる魅力ある観光地域づくりに取り組んでおります。

「有田まちなかフェスティバル」期間中は、「有田焼」のほか、「自然」「グルメ」「伝統的建築物」といった、これまであまり知られてこなかった有田町の魅力を活用した約40のプログラムが町全体を舞台に開催されます。

是非、ご来訪ください。

(ご注意)

プログラム参加希望の方は、プログラム開催の3日前までに有田観光協会へ申し込む必要があります。プログラムの内容、申し込み方法につきましては、下記URLのパンフレットをご参照ください。

(プログラムに関するお問い合わせ先)

有田観光協会 Tel.0955-43-2121

「有田まちなかフェスティバル」パンフレットURL

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/gyoumu/kikaku/file39/panfu-arita271014.pdf>

(観光部 観光地域振興課)

◆津波から身を守る！11月5日は「津波防災の日」です。
～浮いて生き延びる津波救命艇についてご存じですか～

平成23年3月に発生した東日本大震災による大きな津波被害を踏まえ、津波対策についての理解と関心を広く深めることを目的に、毎年11月5日を「津波防災の日」と定められました。※11月5日は、1854年に九州から中部地方の太平洋沿岸に大きな津波被害をもたらした安政南海地震の発生日に因んだものです。

大規模地震に伴う津波から身を守る手段としては、高所への迅速な避難が基本ですが、高台や避難タワー等の整備が難しい地域や、幼児・高齢者・要介護者等を想定した避難対策の確立が求められています。

「津波対応型救命艇」（以下、「津波救命艇」）は、東日本大震災による甚大な津波被害を踏まえて「浮いて生き延びる」をコンセプトに新たな津波避難対策として、船舶用の救命艇をベースに考案、開発された津波救命設備であり、津波の高さに依らず、浮き上がることにより津波から身を守ることができます。

今後、広範な地域で甚大な被害をもたらす恐れのある南海トラフ地震など、巨大地震の発生が危惧されており、地域や施設の実情に応じて津波から身を守る手段として津波救命艇が地域の防災計画に組み込まれることが期待されています。

こうした状況を踏まえて国土交通省（海事局）では、国民が適正な津波救命艇を選択できる環境を整えるとともに、安全で信頼性の高い津波救命艇の円滑な普及・促進を図っています。

津波救命艇についての情報は、国土交通省ホームページでご覧頂けます。

http://www.mlit.go.jp/maritime/maritime_tk5_000024.html

（海事振興部 船舶産業課）

—— 3 九州運輸局ホームページアップ情報 ——

--- 報道発表 ---

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/#HOUDOU>

--- お知らせ ---

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/#OSIRASE>

--- 更新情報 ---

<http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/#KOUSIN>

//////// 編集部より //////////////////////////////////////////

いつも九州運輸局メールマガジンをご覧いただき誠にありがとうございます。
編集部では、運輸と観光に関する取組や話題、イベントの案内、地域の情報等、本メールマガジンへの掲載記事を広く募集しています。お気軽にご投稿ください。

////////////////////////////////////////

■本メールマガジンのバックナンバー閲覧はこちらから

http://www.tb.mlit.go.jp/kyushu/mail_magazine/backnumber-top.htm

■本メールマガジンの配信中止やメールアドレスの変更などはこちらから

http://wwwtb.mlit.go.jp/kyushu/kouhou_mail.html

■九州運輸局メールマガジン編集部（九州運輸局総務部内）

mail: qst-mm-kyushu@ml.mlit.go.jp

Tel : 092-472-2312 Fax : 092-471-7192
